



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも相手を受け入れなさい」

聖書(ローマ書15章7節)

牧師 河合裕志

「互いに相手を受け入れなさい」とパウロは簡単に言うけれど、これは実際にはなかなか難しいこと。ローマの教会にはユダヤ人クリスチャン(A)と異邦人クリスチャン(B)がいた。Aは昔ながらの律法にこだわった生き方をしていた。Bはそれにとられない自由な生き方をしていた。そこに争いが。AはBを裁き、BはAを軽蔑した。こうした両者に向けてパウロはこの言葉を発している。

非難し合うな、排除し合うな、キリストのことを思い起こせ。キリストは広い愛の心をもってあなた方を受け入れてくれている。それに倣い、それに促されて互いに受け合いなさいよ、それぞれのライフスタイルを尊重しなさい、と訴えた。

キリストは確かにユダヤ人を受け入れている。彼は本来神のひとり子だけれども人種的にはれっきとしたユダヤ人。同胞ユダヤ人を何よりも愛し、その救いを願った。「まず、子供たち(ユダヤ人)に十分食べさせなければならない」とまで言っている(マルコ7章27節)

しかしキリストは異邦人(外国人)も受け入れている。ここは並のユダヤ人とは違

う。ローマ人の百人隊長が来て、^{しほ}僕の病気をいやしてほしいと願った時、イエスはスンナリと「わたしが行って、いやしてあげよう」と言うことが出来た(マタイ8章7節)。外人であってもその願いは退けなかった。

キリストにはユダヤ人も異邦人もなかった。両者、民族的違いはあるけれどもそれが差別することにはならなかった。キリストには全ての民が愛の対象であった。救われるべき人々だった。

クリスチャンといっても様々。民族、ライフスタイル、酒を飲む人・飲まない人、趣味、支持政党…と異なっている。しかしそうしたことで相手を断罪したり、排除するということになる、それはもうキリストの弟子とは呼べないかも。

教会に見えていない人々に対してもこのことは言えそう。信仰のない夫・妻・子供達、会社の同僚、学校友達、近隣の人々を愛と寛容の思いをもって受け入れるということ。他の宗教を信じている人達に対しても。バングラデシュで7人もの日本人がイスラム過激派により殺害されてしまった。そこには異教徒は殺しても構わないといった思いがあったか。それはまさに行き過ぎ。驕り。人の命・宗教を最大限尊重せねば。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時